

ポランの広場

宮沢賢治

青空文庫

時、一千九百二十年代、六月三十日夜、
処、イーハトヴ地方、

人物、キユステ 博物局十六等官

ファゼロ ファリーズ小学校生徒

山猫博士

牧者

葡萄園農夫

衣裳係

オーケストラ指揮者

弦楽手

鼓器楽手

給仕

其他 曠原紳士、村の娘 多勢、

ベル、

人数の歓声、 *Hacienda, the society Tango* のレコード、オーケストラ演奏、甲虫の翅音、幕あく。

舞台は、中央よりも少し右手に、赤楊の木二本、電燈やモールで美しく飾られる。

その左に小さな演壇、

右手にオーケストラバンド、指揮者と楽手二名だけ見える。そのこつち側 右手前列に 白布をかけた卓子と椅子、給仕が立ち、山猫博士がコップをなめながら腰掛けて見てゐる。

曠原紳士、村の娘たち、牧者、葡萄園農夫等 円舞。

衣裳係は六七着の上着を右手にかけて、後向きに左手を徘徊して新らしい参加者を待つ。背景はまっくろな夜の野原と空、空にはしらしらと銀河が亘つてゐる。

すべてしろつめくさのいちめん咲いた野原のまん中の心持、

円舞終る。コンフェットー。歓声。甲虫の羽音が一さう高くなる。衣裳係暗をすかし見て左手から退場。

みんなせはしくコップをとる、給仕酒を注いでまはる。山猫博士ばかり残る。

山猫博士（立ち上がりながら）「おいおい、給仕、なぜおれには酒を注がんか。」

給仕、（周章てゝ来る）「はいはい、相済みません。座っておいでだったもんですからついで。」

山猫博士、「座っておいでになつても立つておいでになつても我輩は我輩ぢやないか。おつと、よろしい。諸君は乾杯しやうといふんだな。よしよし。ブ、ブ、ブロージツト。」

乾杯。山猫博士首を動かしながら歩き廻る。

フアゼロ続いてキユステ登場。

フアゼロ、「あ、山猫博士も来てゐるよ。」

キユステ「あれかい。山猫博士といふのは何だい。」

フアゼロ、「あの人は山へ行つて山猫を釣つて来て、ならしてアメリカに売る商売なんだ、こわいさうだよ。」

田園紳士 一、山猫博士と握手する。

「いや、今晚は。先日は失礼いたしました。」

山猫博士、「どうです、カンヤヒヤウ問題もいよいよ落着ですな。」

紳士「えゝ、どうも大へんに不利なことになりました。」

(紳士云ひながらガラスのコップを二つ取つてフアゼロとキユステに渡す。

紳士教師のコップに藁酒をつぐ。)

「あなたには何をあげませう。」

キユステ、「さうだね、葡萄酒をおくれ。」

給仕「さうですか、坊ちゃんも。」

フアゼロ「うん。」給仕注ぐ。

(山猫博士、紳士と盃を合せ、酒をなめ横眼で二人を見ながら云ふ)「どうも水を呑むやつらが来ると広場も少ししらばつくれるね。」

紳士四「えゝ、何せまだ子供ですから、それにそちらはたぶんカトリックの信者でいらつしやいますから。」

山猫博士、「あゝ、カトリックですか。私も祖父がきついカトリックでしたがね。どうもいかんね、カトリックは。おい注いでくれ。」

(オーケストラはじまる。)

山猫博士「おいおいそいつでなしにキャッツホヰスカアといふやつをやってもらひたいな。」

楽長「冗談ぢやない、猫のダンスなんて。」

山「猫博士」「やれ、□やれ、やらんか。」

(オーケストラはじまる)

みんなコツプをおいて踊る。キユステも入る。山猫博士、調子はづれの声でオーケストラに合せながら、みんなの間を邪魔するやうに歩きまはる。猫の声の時はねあがる。近くのものにげる。ファゼロ立って口笛を吹く。衣裳係、帰って来る。キユステの脚絆解ける。「。」誰かが云ふ。

「もしもし脚絆が解けましたよ。」

(キユステ列を離れる。衣裳係が走って行ってそれを巻きながら云ふ。)

「どうも困りますぜ、こんな工合ぢや。それでも衣裳の整はないのがあっちゃや、こつちの失態ですしね、えゝ、どうもこんなこつちや困りますぜ。」

(曲変る。みんな踊りをやめる。コンフェットウをなげるもの、盃をあげるもの。)

牧者(一歩出る)「レディスアン、ゼントルメン、わたくしが一つ唱ひます。ええと、楽長さん。フローゼントリーのふしを一つねがひませんか。」

指揮者「フローゼントリーなんてそんな古くさいもの知りませんな。」

楽手たち「そんなもの古くさいな。」

牧者「困ったなあ。」

鼓器楽手、「わたしは知ってますがね、どうも鼓器だけぢや仕方ないでせう。」
牧者、「あゝ、沢山です。ではどうか※でリズムだけとって下さいませんか。」

鼓器楽手「リズムとってたゞかうですよ。」

(鳴らす。みんな笑ふ)

牧者、「ああそれで結構です。(唱ふ)

けさの六時ころ　ワルトラワラの

峠をわたしが　越えやうとしたら

朝霧がそのときに　ちやうど消えかけて

一本の栗の木は　後光を出してゐた、

わたしはいたゞきの石にこしかけて

朝めしの堅パンを噛ぢりはじめたら

その栗の木がにはかに　ゆすれだして

降りて来たのは　二足の電気栗鼠

わたしは急いで……。

山猫博士「おいおい間違っちゃいかんよ。」

牧者「何だって。」

山猫博士「今朝ワルトラワラの峠に、電気栗鼠の居た筈はない。それはカマイタチの間違ひだらう。もう少し精密に観察して貰ひたいね。」

牧者「さうでしたか。」（首をちぢめてみんなの中に入る。）

山猫博士「今度は僕がうたふよ。」

つめくさの花の 咲く晩に

ポランの広場の 夏まつり

ポランの広場の 夏のまつり

酒を吞まずに 水を吞む

そんなやつらが でかけて来ると

ポランの広場も 朝になる

ポランの広場も 白ぱつくれる。」

（みんな気の毒さうに二人の方を見る）

キユステ「おい、ファゼロ、もう行かう。」

フ「ア」ゼロ（泣き出しさうになりなが「ら」演壇にのぼり、唱ふ）

「つめくさの花の かほる夜は

ポランの広場の 夏まつり

ポランの広場の 夏のまつり

酒くせのわるい 山猫が

黄いろのシャツで出かけてくると

ポランの広場に 雨がふる

ポランの広場に 雨が落ちる」

山猫博士（憤然として）「何だ失敬な。決闘をしろ、決闘を。」

キユステ「馬鹿を言へ。貴さまがさきに悪口を言つて置いて、こんな子供に決闘だなんてことがあるもんか。おれが相手になつてやらう。」

山猫博士、「へん、貴さまの出る幕ぢやない。引つ込んである。こいつが我輩を〔侮〕辱したから我輩はこいつへ決闘を申し込んだのだ。」

キユステ、（ファゼロをうしろにかばふ。）「いゝや、貴さまはおれの悪口を言ったのだ、

おれは貴さまに決闘を申し込むのだ。全体きさまはさつきから見てみると、さもきさま一人の野原のやうに威張り返つてゐる。さあピストルか刀かどっちかを撰べ。」

山猫博士（たじろいで酒を一杯のむ。）「黙れ、きさまは決闘の法式も知らんな。」

キユステ「よし、酒を呑まなけあ物を言へないやうな、そんな卑怯なやつは相手の子供でなくさんだ。おい　ファゼロ、しつかりやれ、こんなやつは野原の松毛虫だ。おれが介添をやらう。めちやくちやにぶん撲つてしまへ。」

山猫博士、「よし、おい、誰かおれの介添人になれ。」

田園紳士二、「まあまあ、あんな子供のことですからどうか大目に見てやって下さい。今夜はたのしい夏まつりの晩ですから。」

山猫博士（なぐりつける。）「やかましい。そんなことはわかつてゐる。黙つて居れ。おい、誰かおれの介添をしろ。おい、ミラアきさまやれ。」

葡萄園農夫「おいらあやだよ。」

山猫博士、「〔臆〕病者、〔お〕い、ケルン、きさまやれ。」

田園紳士三、「おいらあやだよ。」

山猫博士「おいてめいやれ。」

田園紳士四、「おいらあやだよ。」

山猫博士、「よし介添人などいらぬ。さあ仕度しろ。」

キユステ、「きさまも仕度しろ。」（ファゼロに仕度させる）

山猫博士「劍かピストルかどつちかをえらべ。」

キユステ、「どつちでもきさまのいゝ方をとれ。」

山猫博士、「よし、おい給仕、劍を二本持つて来い。」

給仕「こんな野原劍がありません。ナイフでいけませんか。」

山猫博士「ナイフでいゝ。」

給仕「承知しました。」（退場 洋食用のナイフを二本持つて来て 渡す。）

山猫博士「さあどつちでもいゝ方をとれ。」

ファゼロ、（一本をとり一本を山猫博士に投げて渡す。）

山猫博士、「さあ来い。」

キユステ、「よし、ファゼロ、さあしつかりやれ。」

（闘ふ、ファゼロ山猫博士の胸をつく。山猫博士、周章してかけまはる。）

「おいおい、やられたよ。誰か沃度ホルムがないか。過酸化水素をもってゐないか。誰か

ないか。やられたよ。やられた。」（氣絶する）

キユステ、「よくいろいろの薬の名前を知つてやがるな。なあに 傷もつけあしないよ。」
 牧夫「水をかけてやらう。」（如露で顔に水をそゞぐ。）

山猫博士（起きあがる）「あゝ、こゝは地獄かね、おや、ポランの広場へ逆戻りか。いや、こいつはいけない。えゝと、レデース アンヂェントルメン、諸君の忠告によつて僕は退場します。さよなら。」（すばやく退場、みんなひどく笑ふ。拍手、コンフェットウ、）
 葡萄園農夫（演壇に立つ。）「諸君、黄いろなシャツを着た山猫釣りの野郎は、正にしつぽをまいて遁げて行つた。つめくさの花がともす小さなあかりはいよいよ数を増し、そのかほりは空気がつばいだ。見たまへ。天の川はおれはよくは知らな□いが、何でもxといふ字の形になつてしらじらとそらにかかつてゐる。かぶとむしやびらうどこがねは列になつてぶんぶんその下をまはつてゐる。愉快な愉快な夏のまつりだ。誰ももう今夜はくらしのことや、誰が誰よりもどうだといふやうな、そんなみつともないことは考へるな。おゝ、おれたちはこの夜一ばん、東から勇ましいオリオン星座がのぼるまで、このつめくさのあかり照らされ、銀河の微光に洗はれながら、愉快に歌ひあかさうぢやないか。黄いろな藁の酒は尽きやうが、もつときれいなすきとほつた露は一ばんそらから降りてくる。

おゝ娘たち、（町の人形どものやうに、手数を食った馬鹿げた着物を着ないでも、）お前たちはひときれの白い切をかぶれば、あとは葡萄いろの宵やみや銀河から来る鈍い水銀、さまざまの木の黒い影やらがひとりでおまへたちを飾るのだ。

あゝ、山猫の云ひぐさではないが、

ポランの広場の夏まつり

ポランの広場の夏まつり とかうだ。」

（壇を下る 拍子、歓声、オーケストラ、〔数文字空白〕を奏する 円舞はじまる。

幕)

青空文庫情報

底本：「【新】校本宮澤賢治全集」筑摩書房

1995（平成7）年11月25日初版第1刷発行

※宮沢賢治作品の草稿には、繰り返し書き加えられた手直しの跡が残されている。底本の本文は、「原則として作品の最終形態」によっているが、「草稿・原文を校訂して本文を決定した場合には、本文の該当部分を「」で括って」示してある。編者による注記も、「」によって示されている。本ファイルの作成に当たっては、底本が用いた「」をそのまま使用した。

入力：岡本正貴

校正：石川友子

2000年1月8日公開

2005年10月18日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ポランの広場

宮沢賢治

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>